

2020. **9**
No. **204**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第63回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	耐久消費財の購入状況		5
3	外食・テイクアウト		7
4	貯蓄		8
5	ローン等の利用		10
6	夏季ボーナス		11
7	お中元		12
8	夏休みの過ごし方		14



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が9.6%、「悪くなった」が25.0%、「変わらない」が65.4%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△15.4。県内景気が新型コロナウイルス感染症の影響で悪化するなか、勤労者の厳しい生活実感を反映した結果となっている。
- 家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」の順。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「スマートフォン」、「パソコン」、「カーナビゲーション」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「4K・8Kテレビ」が最も多く、以下、「スマートフォン」、「ドライブレコーダー」の順。

3. 外食・テイクアウト

- 緊急事態宣言解除後の外食は、月1回以内の利用が37.9%と、昨夏（82.0%・参考値）の半分以下の水準。
- よく利用する店舗は「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司・焼肉」、「ファストフード」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は301万円で、現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は19.4%で、平均借入額は1,099万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」（同順位）の順。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスは、5年連続で「減りそう」が「増えそう」を上回った。新型コロナウイルス感染症の影響拡大により県内景気が悪化するなか、先行きに不透明感が漂っていることから、今夏のボーナスは厳しい支給状況となったと考えられる。
- 平均手取り額（予想含む）は19万6千円。使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「ローン返済」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の36.3%。贈る件数は「2件以下」が最も多く、平均件数は2.7件。
- 1件あたりの単価は、「3,000円程度」が最多。平均単価は3,553円、平均予算総額は10,194円。
- 贈りたい商品は「果物」が最多で、以下、「ビール」（含むビール券）、「お茶・コーヒー」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「帰省」、「スポーツ・健康づくり」、「国内宿泊旅行」の順。「海外旅行」の回答はなし。

(特別調査) 新型コロナウイルス関連

新型コロナウイルス感染症に関連して、「1年前と比較した収支の増減」、「飲食店のテイクアウトの利用」、「緊急事態宣言解除後の外食利用」、「夏休みの予定を立てなかったことについての同感染症の影響の有無」についての調査を実施。

- 1年前との支出額の比較について、「自宅内での食費」、「医療・衛生費」、「通信費」が増加した一方、「外食費」、「交際費」は減少。
- 新型コロナウイルス感染症が拡大した最近半年間におけるテイクアウトの利用率は79.4%。テイクアウトの利用回数は月2～3回が最多。

- 夏休み・盆休みの過ごし方について、71.5%が「予定なし」。そのうち56.8%が新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 500 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

回答者数：480 名

調査時期：2020 年 7 月下旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	53人	11.0%
	30 代	107	22.3
	40 代	159	33.1
	50 代 以 上	161	33.5
家 族	既 婚	306	63.8
	未 婚	174	36.2
性 別	男 性	291	60.6
	女 性	189	39.4
合 計		480	100.0

(参考) 前回 (2019 年夏季) 内訳

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	250人	23.4%
	30 代	256	24.0
	40 代	244	22.9
	50 代 以 上	316	29.6
家 族	既 婚	711	66.6
	未 婚	353	33.1
性 別	男 性	525	49.2
	女 性	541	50.7
合 計		1,067	100.0

◎過去調査との比較について

新型コロナウイルス感染症の影響により、調査方法を当行営業店を通じた調査票の配付・回収による調査から、民間調査会社による Web アンケートに変更しました。

このため、調査結果が不連続となっており、過去調査との比較は参考値となります。

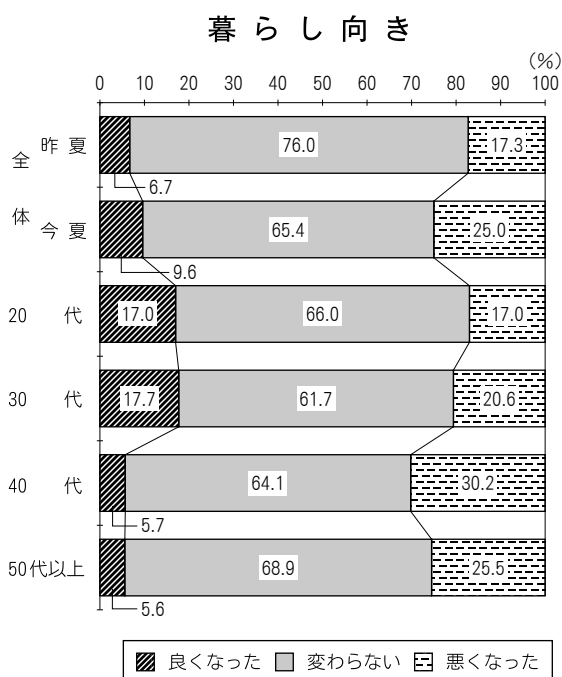
1 家計の状況

生活実感は前年よりも悪化

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が9.6%、「悪くなった」が25.0%、「変わらない」が65.4%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△15.4となった。参考までに昨夏(△10.6)と比較すると4.8ポイントの悪化となった。

県内景気は、新型コロナウイルス感染症の影響で悪化しており、また調査直前には都内を中心に感染者数が再び拡大傾向を示すなど、先行きの不透明感も増している。このようななか、勤労者の厳しい生活実感を反映した結果となっている。

年代別にみると、「悪くなった」の回答比率は20代が17.0%、30代が20.6%、40代が30.2%、50代以上が25.5%となっており、比較的中・高年層の暮らし向きが悪くなっているとみられる。

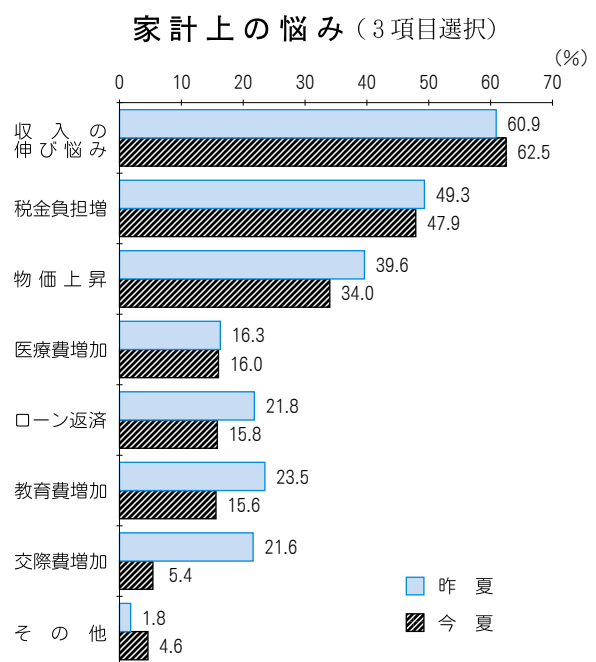


家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み(3項目選択)は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」と続いた。

上位項目をみると、「収入の伸び悩み」が回答比率62.5%で1位となった。また、2位が「税金負担増」、3位が「物価上昇」となり、昨年10月の消費税増税と、それに伴う物価の上昇が家計に負担感をもたらしている状況が窺われる。

参考までに昨夏と比較すると、「交際費増加」が16.2ポイントの大幅な低下となった。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、不要不急の外出や会食などを控える動きが強まった結果と考えられる。また、「教育費増加」、「ローン返済」の比率もそれぞれ低下した。



(特別調査)

新型コロナウイルス感染症の家計への影響

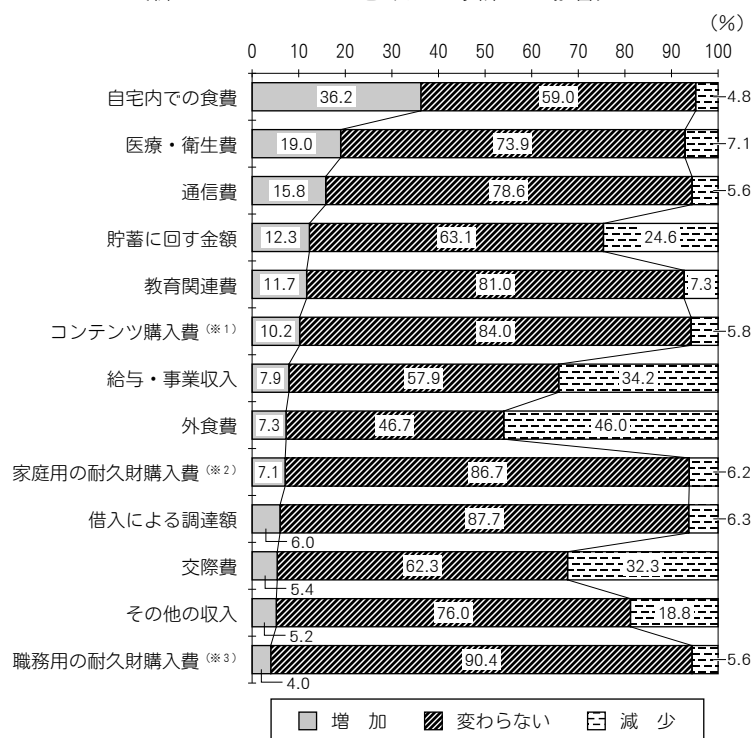
今回の調査では、新型コロナウイルス感染症に伴う経済情勢の変化が家計に与えた影響を把握するために、1年前と比べて家計の収入・支出項目がどう変化したか伺った。

増加（「とても増えた」・「やや増えた」の合計）した割合が多かった項目は、「自宅内での食費」、「医療・衛生費」、「通信費」などであり、休校措置や外出自粛に伴う在宅時間の増加を背景にした「巣ごもり消費」や、「感染防止対策」への出費を増やしたことが読み取れる。一方、減少（「やや減った」・「とても減った」）

した割合が多かった項目は「外食費」、「交際費」などであり、感染防止対策が求められるなか、外出を伴う不要不急の消費が抑えられていた様子が表れている。また、「給与・事業収入」の減少も多く挙げられており、外出自粛のため宿泊・レジャー施設や飲食店などに深刻な影響が及んだことや、世界的なウイルス流行に伴う生産調整や休業の動きが広がったことから、勤労者の収入減につながったものとみられる。

このほか、「貯蓄に回す金額」は増加・減少とも第4位に挙がっており、今回の事態を受けて家計の貯蓄への姿勢が二極化している様子が窺われる。

家計項目の1年前との増減比較
(新型コロナウイルス感染症の家計への影響)



(※1) 有料放送、映像・音楽・書籍等の配信サービス等への支出
(※2) 家庭内で利用する家電や行楽用品の購入費
(※3) テレワークのための機材・家具等購入など

2 耐久消費財の購入状況

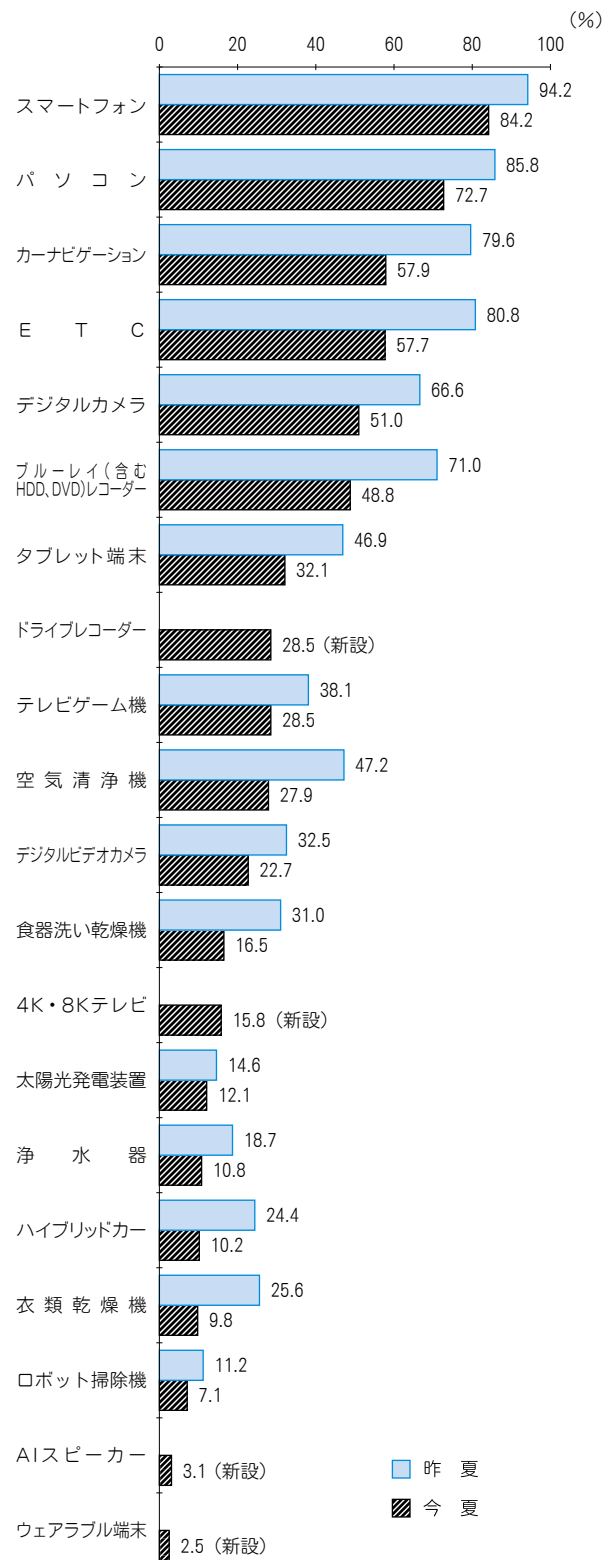
スマートフォンの普及率が8割超

耐久消費財のうち、主要家電品など20品目についてその普及状況をみると、「スマートフォン」(84.2%)、「パソコン」(72.7%)、「カーナビゲーション」(57.9%)の順となった。

年代別の普及状況についてみると、スマートフォンが20代、40代で9割前後、30代、50代以上で8割前後と、全年代に普及が進んでいる。一方、パソコンの普及率は、40代以上で70%～80%台となっているが、20代、30代では50%台と低くなっている。また、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラの普及率も40代以降と比べて20代、30代の方が低い傾向がみられる。このことから若年層では多機能なスマートフォンに役割を集約している様子が窺われる。

なお、今回新設した4項目についてみてみると、ドライブレコーダーが8位(28.5%)、4K・8Kテレビが13位(15.8%)、AIスピーカーが19位(3.1%)、ウェアラブル端末が20位(2.5%)となった。

耐久消費財の普及状況

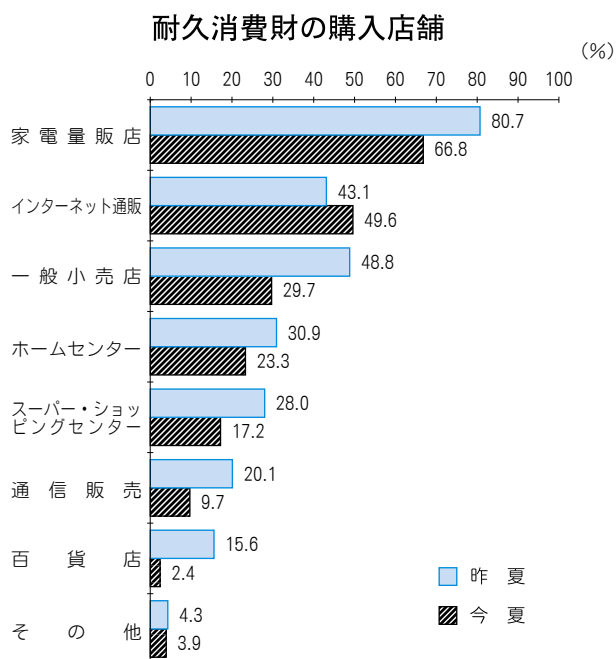


購入店舗は家電量販店がトップ

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は、「家電量販店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

「家電量販店」は、2位の「インターネット通販」を17.2ポイント引き離しており、耐久消費財が主に家電量販店で購入されている様子が窺われる。「インターネット通販」は20代、30代の利用率が4割弱であるのに対し、40代は50.3%、50代以上で59.5%など、年代が上がるほど利用率が高まっているのも特徴的である。

なお、参考までに昨夏と比較すると、「インターネット通販」の比率は43.1%から49.6%へと6.5ポイント上昇し、順位も3位から2位に上がった。今回のアンケートはWebによる調査であり、普段からパソコンやスマートフォンに使い慣れている方の回答が多かったことが要因と考えられる。

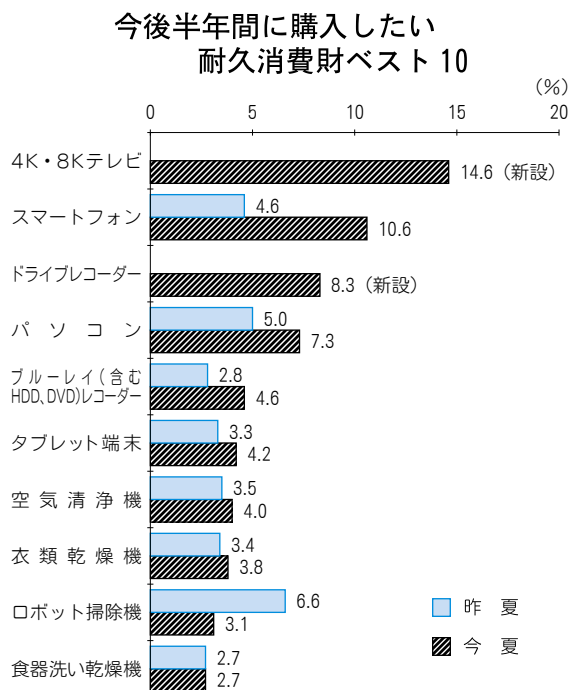


購入希望は「4K・8Kテレビ」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「4K・8Kテレビ」で、以下、「スマートフォン」、「ドライブレコーダー」、「パソコン」の順となった。

年代別にみると、20代では「空気清浄機」、「衣類乾燥機」の支持率が高く、生活家電へのニーズが高い傾向がみられた。一方、30代以上では「4K・8Kテレビ」「ドライブレコーダー」、40代以上ではこれらに加えて「スマートフォン」の支持が高かった。

「4K・8Kテレビ」が求められる背景には、東京オリンピック・パラリンピック開催の1年延期に加え、自宅で過ごす時間の増加や、定額給付金の入金効果があるものとみられる。



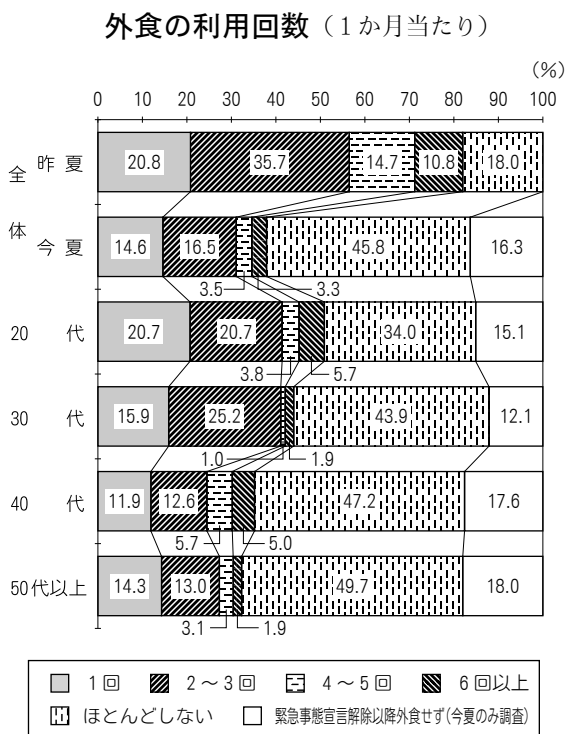
3 外食・テイクアウト

外食の利用回数は月2～3回が最多

今回は、山梨県内における緊急事態宣言解除後の外食の利用状況について質問した。

家族での外食の利用状況をみると、全体の37.9%が月1回以上利用している。参考までに昨夏（82.0%）と比較すると、44.1ポイントの大幅な低下となった。

内訳をみると、「月2～3回」が16.5%と最多で、以下、「月1回」（14.6%）、「4～5回」（3.5%）、「6回以上」（3.3%）となっている。一方、「ほとんどしない」が45.8%と半数近くを占めたほか、「緊急事態宣言以降、外食はしていない」も16.3%を占めるなど、新型コロナウイルス感染症の影響で、外食を控える傾向が強まっている様子が窺える。

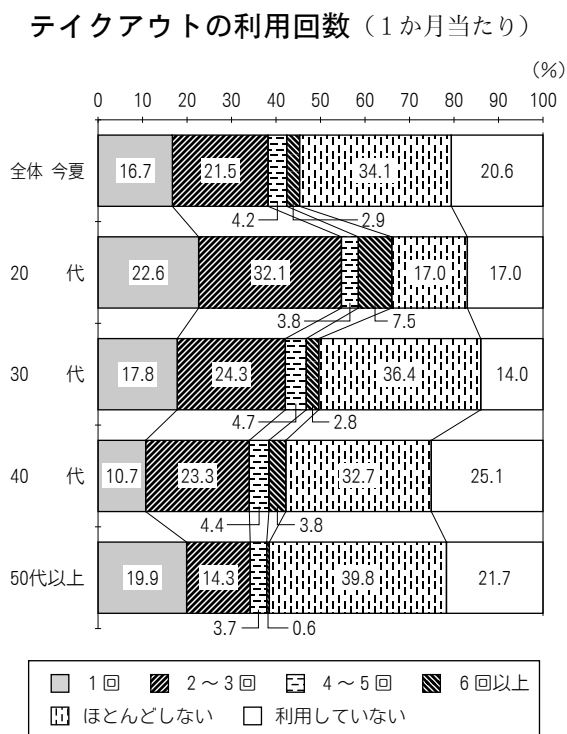


テイクアウトの利用回数は月2～3回が最多

また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自粛を余儀なくされていた事業者によるテイクアウトの開始が注目されたことから、過去半年以内のテイクアウトの利用状況についてあわせて調査した。

最近半年間（概ね2020年1月下旬～7月中旬）のテイクアウト（飲食店による持ち帰り・宅配サービス）の利用状況をみると、全体の45.3%が月1回以上利用している。

内訳をみると、「月2～3回」が21.5%と最多で、以下、「月1回」（16.7%）、「4～5回」（4.2%）、「6回以上」（2.9%）となっている。また、「ほとんどしない（月1回未満の利用）」（34.1%）を合わせると、全体の79.4%がテイクアウトを利用したことになる。



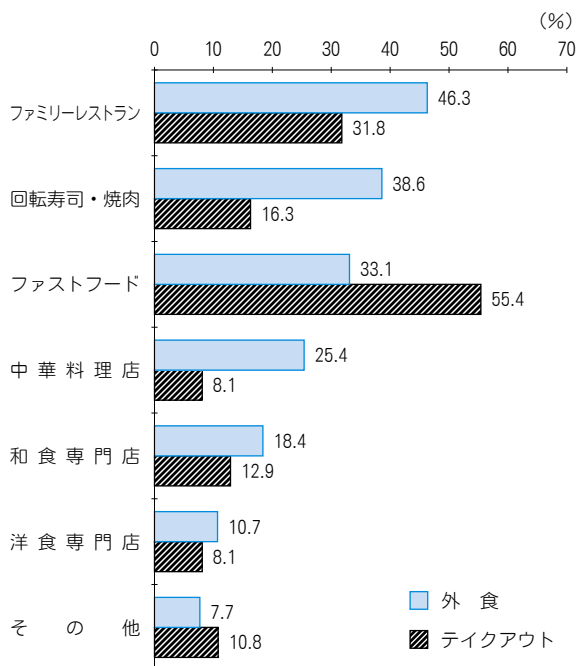
4 貯 蓄

「ファストフード」「カフェ・居酒屋等」は テイクアウトの利用割合が高い

外食でよく利用する店舗（3項目以内）は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司・焼肉」、「ファストフード」と続いた。また、テイクアウトでよく利用する店舗（3項目以内）は、「ファストフード」が最多で、以下、「ファミリーレストラン」、「回転寿司・焼肉」と続いた。

なお、外食とテイクアウトの利用割合を比べると、「ファストフード」と「その他（カフェ・居酒屋等）」はテイクアウトの方が利用割合が高かった。カフェや居酒屋等のなかには、外出自粛に伴う来客減少への対応策として新たにテイクアウトを開始した店舗もあり、通常営業からテイクアウトへ利用客がシフトした様子が窺われる。

外食・テイクアウトでよく利用された店



平均貯蓄額は301万円

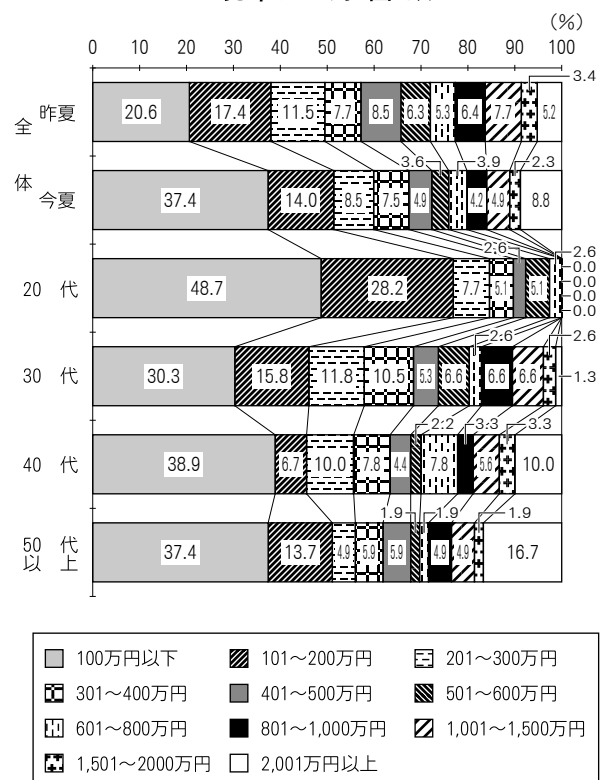
現在の貯蓄額の平均額は301万円であった。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「2,001万円以上」、「201万円～300万円」、「301万円～400万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が86.2%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」、「生命保険」、「株式」の順となった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は30代以上で8割超となっている。また、「株式」、「投資信託」は年代が高くなるに連れて利用率が上昇している。

現在の貯蓄額



安全性重視の運用希望がみられる

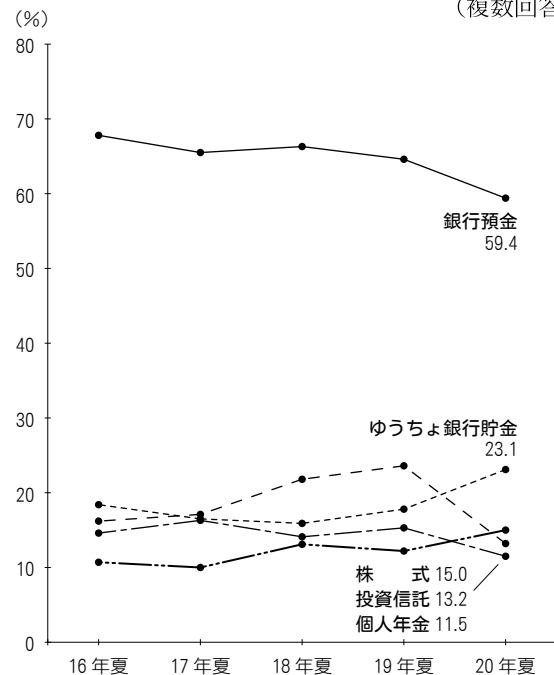
今後増やしたい金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が最多で、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」、「投資信託」、「個人年金」の順となった。

年代別にみると、各年代とも1位が「銀行預金」、2位は20代から40代が「ゆうちょ銀行貯金」、50代以上は「ゆうちょ銀行貯金」・「株式」（同順位）であった。また、20代、30代での個人年金の比率が比較的高くなっている。

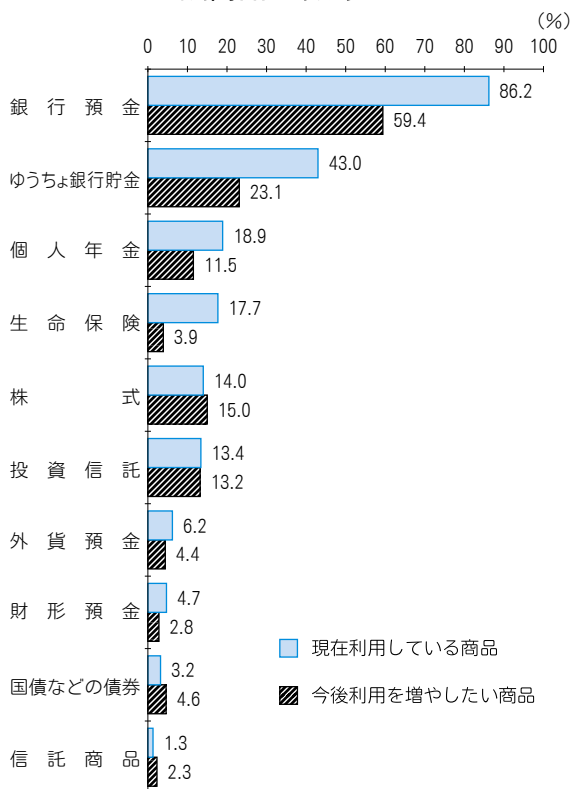
貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が51.7%と2位を11.3ポイント引き離しトップとなった。本レポート内「新型コロナウイルス感染症の家計への影響」や「ボーナスの使い道」の項目でも貯蓄を増やす意向が確認できるなか、元本の確保を図りつつ保有するニーズが高まっているものとみられる。以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」、「値上がり期待ができる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

今後増やしたい金融商品の推移

（複数回答）



金融商品の利用（複数回答）



貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）

（%）

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証があり安心	51.7	43.4	41.1	53.5	59.6	1
預け入れ引き出しが自由	40.4	47.2	38.3	41.5	38.5	2
利回りが良い	40.0	26.4	40.2	39.0	45.3	3
値上がり期待ができる	20.6	13.2	19.6	22.0	22.4	4
利用金融機関が自宅から近い	17.1	22.6	21.5	15.7	13.7	5
利用金融機関のサービスが良い	10.6	15.1	8.4	9.4	11.8	6
利用金融機関が勤務先から近い	3.1	7.5	2.8	5.0	0.0	8
利用金融機関に友人、知人がいる	2.7	7.5	6.5	0.6	0.6	9
勤務先が利用金融機関と取引している	1.9	3.8	3.7	0.6	1.2	7
利用金融機関が集金にきてくれる	1.0	1.9	0.0	1.3	1.2	10
その他	1.5	0.0	1.9	1.9	1.2	—

5 ローン等の利用

平均借入額は1,099万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は19.4%で、平均借入額は1,099万円となった。

利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」と続いた。参考までに昨夏と比較すると、利用目的では、「教育費以外の生活資金」、「旅行・レジャー」、「財テク資金」などの比率が上昇した反面、「自動車・家電品の購入」、「土地・住宅の購入」、「教育資金」は低下した。

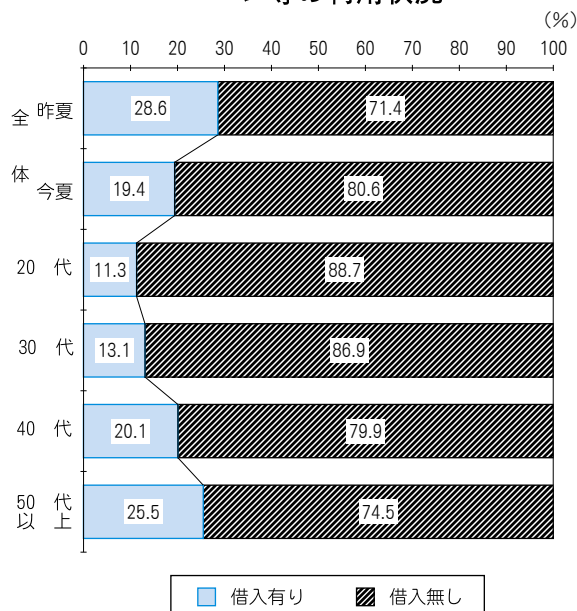
一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」（同順位）の順となった。参考までに昨夏と比較すると、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」、「勤務先」の比率が上昇した反面、「銀行」、「銀行以外の金融機関」などは低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者は年代が上がるほど高くなっており、平均借入額は、20代338万円、30代2,390万円、40代1,283万円、50代以上658万円となった。

また、利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。

なお、借入先は、20代で「月賦・クレジット会社」、30代以上で「銀行」が1位となっており、2位は20代で「銀行」・「銀行以外の金融機関」（同順位）、30代、50代以上で「月賦・クレジット会社」、40代で「月賦・クレジット会社」・「政府系金融機関」（同順位）となっている。

ローン等の利用状況



ローン等の借り入れ先・利用目的
(複数回答)

		(%)				
		全体	20代	30代	40代	50代以上
利用目的	土地・住宅の購入	52.7	16.7	64.3	62.5	46.3
	自動車・家電品の購入	25.8	33.3	21.4	25.0	26.8
	教育資金以外の生活資金	15.1	16.7	7.1	18.8	14.6
	教育資金	9.7	16.7	0.0	3.1	17.1
	旅行・レジャー	7.5	16.7	7.1	9.4	4.9
	財テク資金	3.2	0.0	0.0	0.0	7.3
	その他	5.4	16.7	7.1	0.0	7.3
借入先	銀行	55.9	33.3	71.4	46.9	61.0
	月賦・クレジット会社	30.1	83.3	21.4	21.9	31.7
	銀行以外の金融機関	12.9	33.3	7.1	15.6	9.8
	住宅金融支援機構等政府系金融機関	12.9	0.0	14.3	21.9	7.3
	勤務先	3.2	0.0	0.0	6.3	2.4
	その他	4.3	0.0	0.0	3.1	7.3

6 夏季ボーナス

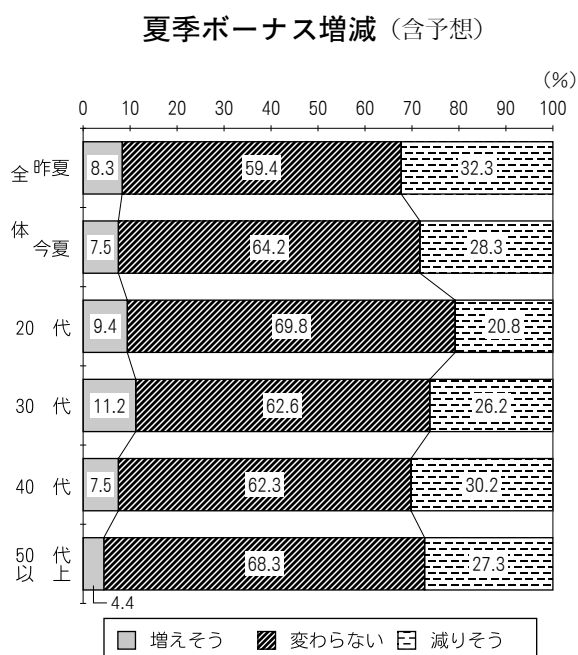
手取り額は減額が増額を上回る

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額・含予想）は、「増えそう（増えた）」が7.5%、「減りそう（減った）」が28.3%となり、5年連続で「減りそう」が「増えそう」を上回った。

（本年の調査は新型コロナウイルス感染症の影響により7月下旬に実施したため、支給実績を含めた回答となっている。）

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△20.8で、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により県内景気が悪化するなか、先行きに不透明感が漂っていることから、今夏のボーナスは厳しい支給状況となったと考えられる。

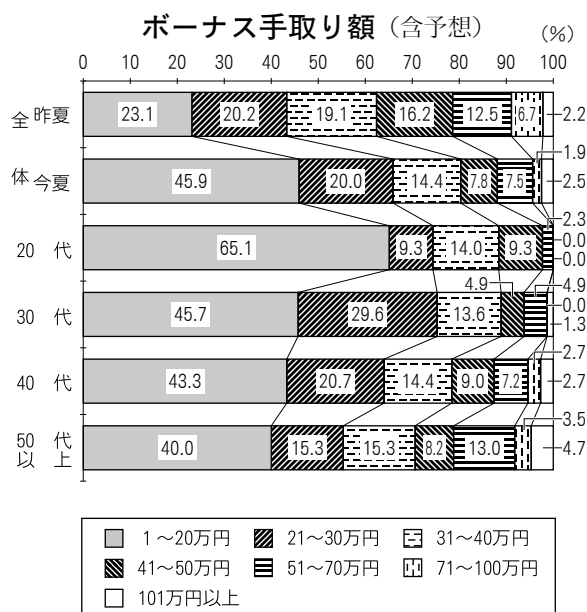
なお、年代別にみると、すべての年代で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。



平均手取り額は19万6千円

手取り額（予想を含む）は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

また、平均手取り額は19万6千円となった。年代別にみると、20代が18万3千円、30代が19万4千円、40代が21万3千円、50代以上が18万5千円となっている。

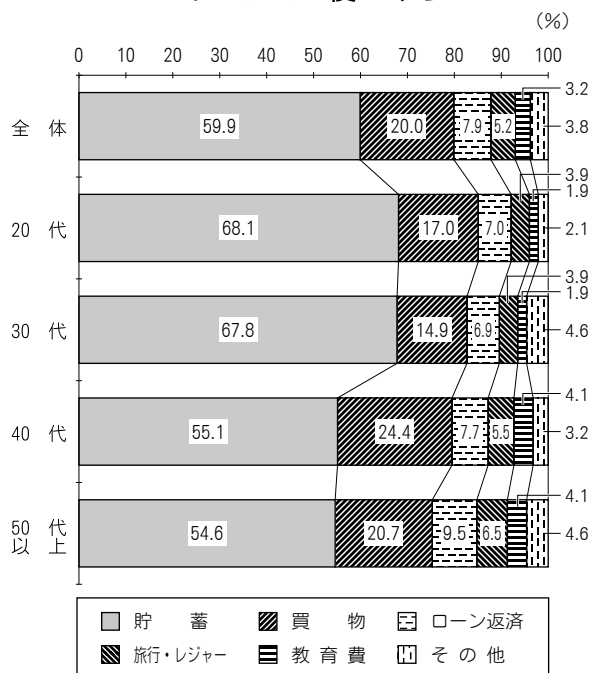


「貯蓄」の配分割合が上昇

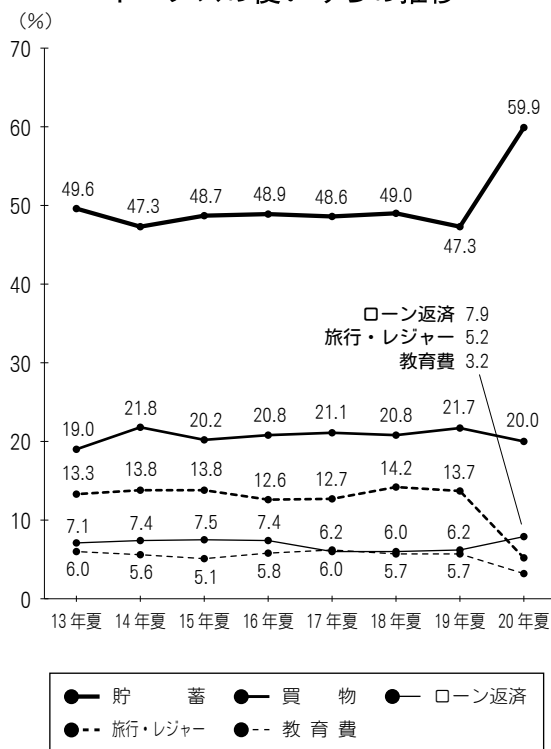
ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、次いで「買物」、「ローン返済」、「旅行・レジャー」となった。

参考までに昨夏と比較すると、「貯蓄」の比率が12.6ポイント上昇した一方、「旅行・レジャー」の比率は8.5ポイント低下した。調査方法、調査対象が異なるため単純な比較はできないものの、新型コロナウイルス感染症の影響で外出を控える動きが強まる一方、収束の時期が見通せないなかで、将来の不安に備えて貯蓄をしようという動きが強まったものと考えられる。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お中元

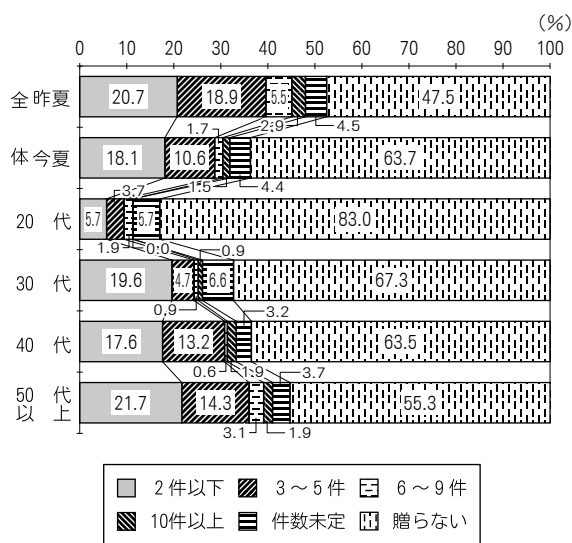
贈る件数は平均 2.7 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 36.3% となった。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「件数未定」、「6～9 件」、「10 件以上」の順で、平均贈答件数は 2.7 件となった。

年代別にみると、贈る予定のある人は、20 代が 17.0%、30 代が 32.7%、40 代が 36.5%、50 代以上が 44.7% となっており、平均贈答件数は、20 代が 2.2 件、30 代が 2.1 件、40 代が 2.8 件、50 代以上が 2.9 件となった。

お中元を贈る件数



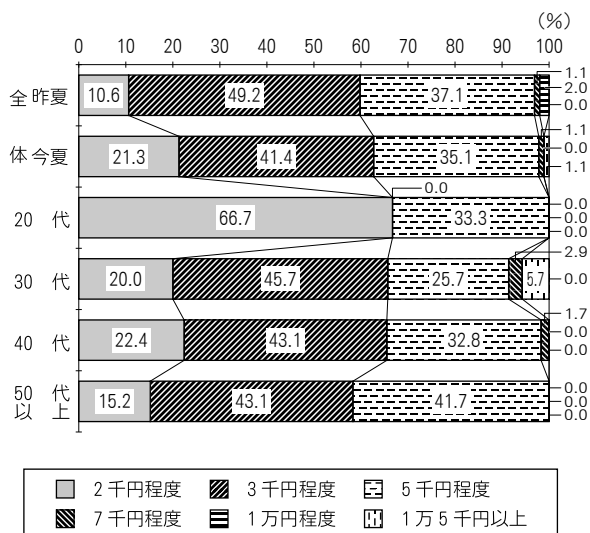
平均単価は 3,553 円、平均予算は 10,194 円

1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 41.4% と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 35.1% となっており、この両者で 8 割弱を占めた。

また、平均単価は 3,553 円、平均予算総額は 10,194 円となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 2,300 円、30 代が 3,893 円、40 代が 3,415 円、50 代以上が 3,614 円となっており、平均予算総額は、各々 6,500 円、7,482 円、10,066 円、11,727 円となった。

お中元の相場 (1件当たり平均単価)



「果物」の支持が高い

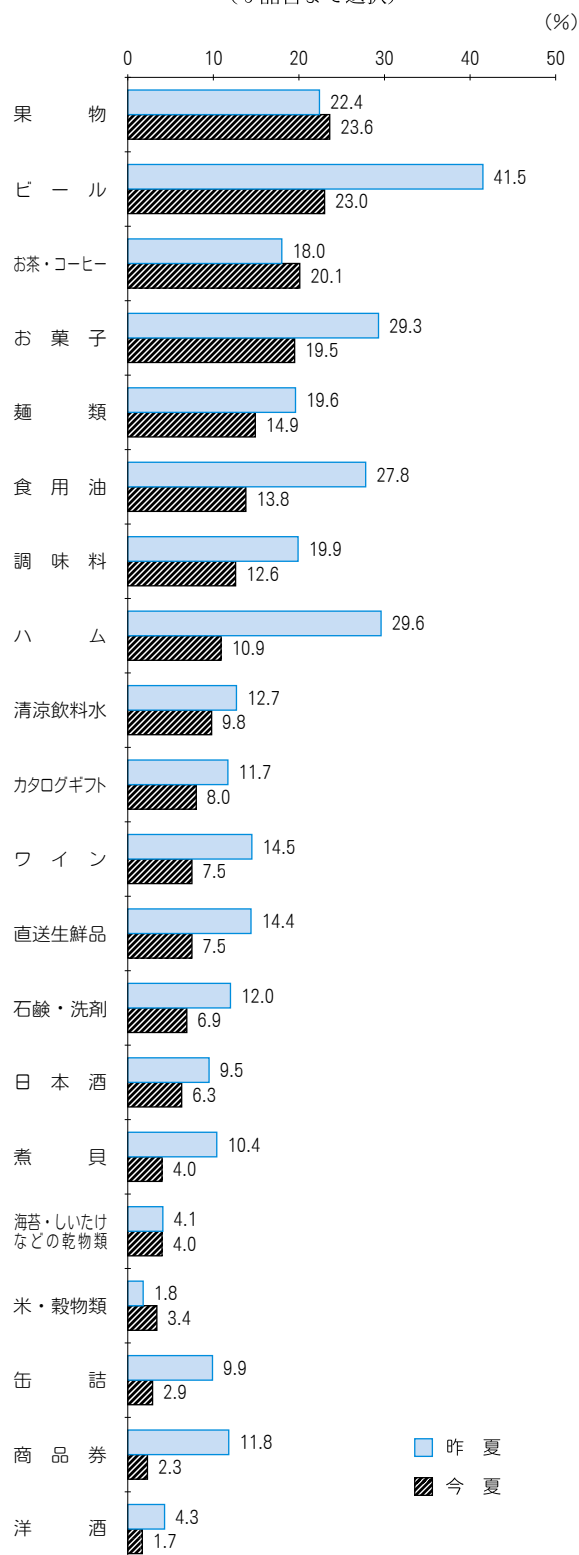
お中元に贈りたい商品(5品目まで選択)は、「果物」が最多で、以下、「ビール」(含むビール券、以下同じ)、「お茶・コーヒー」、「お菓子」、「麺類」の順となった。

年代別にみると、1位は20代で「お茶・コーヒー」・「果物」(同順位)、30代で「お茶・コーヒー」、40代で「ビール」、50代以上では「果物」となっている。

今夏お中元に贈りたいもののベスト5(年代別)

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	お茶・コーヒー	お茶・コーヒー	ビール(含むビール券)	果物
2	果物	ビール(含むビール券)	お茶・コーヒー	お菓子
3	食用油	食用油 お菓子 調味料 清涼飲料水	お菓子	ビール(含むビール券)
4	ビール(含むビール券)		果物	麺類
5	日本酒		調味料	食用油

お中元に贈りたいもの (5品目まで選択)



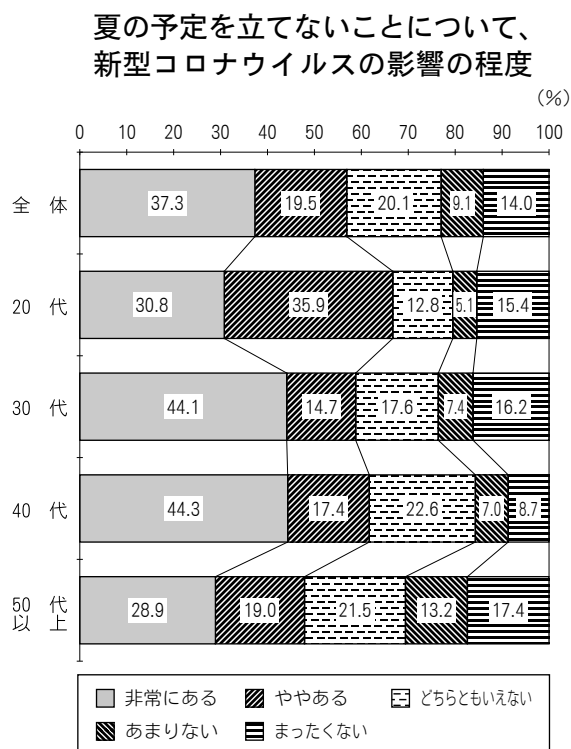
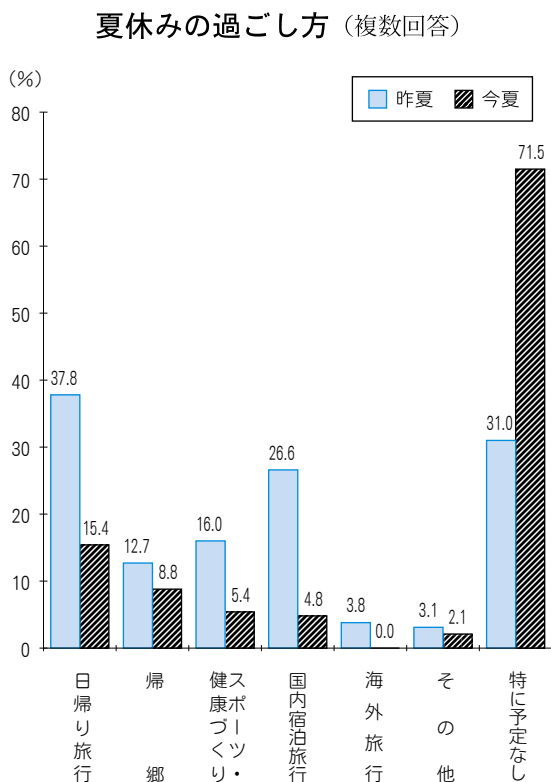
8 夏休みの過ごし方

「特に予定なし」の比率が7割を超える

夏休みの過ごし方（複数回答）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「特に予定なし」が71.5%と最多を占めた。以下、「日帰り旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「国内宿泊旅行」の順となった。なお、「海外旅行」との回答はなかった。

なお、「特に予定なし」と回答された方に対して、外出の予定を立てないことについて、新型コロナウイルス感染拡大の影響の有無を伺った

ところ、「非常にある」（37.3%）、「ややある」（19.5%）との合計が56.8%を占めている。また、各項目について参考までに昨夏と比較すると「日帰り旅行」が22.4ポイント、「国内宿泊旅行」が21.8ポイントと大幅に低下したほか、その他の項目も比率が低下している。調査方法・調査対象が異なるため、単純な比較はできないものの、新型コロナウイルス感染防止のために夏の予定を見直した向きが多かったものと考えられる。



キャッシュレスな毎日を。

お買い物やお金の管理がスムーズに。

山梨中銀 Visa デビット

—マイデビット—

MyDebit

YAMANASHI TARO

GOOD MONTH/年
THRU 月
有効期限 00/00



Let's cashless!

- 現金よりも便利、安心
- アプリで収支が見える
- お買い物のたびにスグに口座から引き落とし
- 国内・海外のVISA加盟店で使える
- お得なキャッシュバック特典付き
- 15 歳以上(中学生を除く)からご利用可能！審査不要！

※初年度年会費は無料です。次年度以降、年会費 1,100 円(税込)が必要となりますが、一定の条件により無料となります。(2020 年 7 月 1 日現在)

Web での
お申し込みは
こちらから



山梨中央銀行

VISA